

北海道 公衆衛生学雑誌

ISSN 0914-2630 CODEN HKEZEA

Vol 16 No1 2002

Hokkaido Journal of Public Health

Contents

第54回北海道公衆衛生学会プログラム

- 学会員 北海道立衛生研究所長 田村正秀
会期 平成14年11月21日・22日
会場 かでの2・7（道民活動センタービル）
札幌市中央区北2条西7丁目

学会長講演

- 今、地方衛生研究所に求められているもの
北海道立衛生研究所長 田村正秀

特別講演

- 1 これからの保健師に期待すること－教育の立場から
天使大学長 近藤潤子
- 2 遺伝子治療を通してみた医療－社会的背景
北海道大学大学院客員教授 崎山幸雄

教育講演

- 1 高齢者共同住宅を経営する立場から
夕日ヶ丘山荘 正木正一
- 2 BSEに関わる最新の知見
北海道立衛生研究所微生物部 池田徹也

北公衛誌
Hokkaido JPH

北海道公衆衛生学会 通巻45号

第54回北海道公衆衛生学会

学 会 長 田 村 正 秀 北海道立衛生研究所長
 副 学 会 長 小 山 隆 三 北海道保健福祉部技監
 副 学 会 長 宮 田 睦 彦 札幌市保健福祉局長
 会 期 平成14年11月21日・22日
 会 場 かでる2・7 (道民活動センタービル)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 TEL011-231-4111

第1会場 かでるホール
 第2会場 4階大会議室

会 場 案 内 図



「かでる27」への
最寄りの交通機関

- ・JR—札幌駅
 - ・JRバス
 - ・地下鉄—さつほろ駅
 - ・市営バス
 - ・〃—大通駅
 - ・中央バス
 - ・〃—西11丁目駅
- 北1条西7丁目
(停留所)

学会運営についてのお知らせ

1 学会参加者の皆様へ

- (1) 会場受付で、講演集代(2,000円)、参加費(学会員は1,000円、非学会員は2,000円)を納めてください。
なお、一般演題の発表者には、あらかじめ講演集をさしあげていますので、参加費(1,000円)を納めてください。
引き換えにネームプレートをお渡ししますので、氏名・所属を記入の上、着用してください。ネームプレートの無い方の入場はお断りします。
- (2) 喫煙及び飲食は必ず所定の場所をお願いします。
- (3) 会場内での呼び出しは行いません。

2 一般演題の発表者へ

- (1) 発表者は前演者の発表が始まると同時に、会場前部の「次演者席」に着席してください。
- (2) 抄録に基づいて発表していただき、討論を行います。スライド、OHP等は使用できません。
- (3) 1演題につき発表8分、討論2分の合計10分とします。
- (4) 発表時間(8分)の終了とともに、進行係が合図します。

3 一般演題の座長の方へ

- (1) 前座長の登壇と同時に、会場前部の「次座長席」に着席してください。
- (2) 担当の演題発表の進行は、座長に一任します。1演題につき10分(発表8分、討論2分)を目安に、全体として予定時間通りの進行となるようにお願いします。
- (3) 討論に際しては、所属と氏名を述べてから討論に入るように、ご指示ください。

〈関連行事〉

◇北海道公衆衛生協会 平成14年度研究集会

テーマ 「痴呆性高齢者の地域ケア」基調講演及びパネルディスカッション

11月20日(水) 13:00-17:00 かでるホール

◇北海道衛生公衆衛生セミナー

テーマ 「児童虐待の防止—機能するネットワークと継続したケア」

11月21日(木) 18:00~(一般演題終了後) かでる2・7 4階大会議室

◇市民公開講座

テーマ 「活性酸素と健康」

11月21日(木) 18:00~ 北大百年記念会館大会議室(札幌市北区北8条西5丁目)

第54回北海道公衆衛生学会日程
—科学的知見を基にした公衆衛生活動—

		第1会場 (かでるホール)	第2会場 (4階 大会議室)
11月	前	学会長挨拶 (9:30-9:35) 北海道立衛生研究所長 田村 正秀 学会長講演 (9:40-10:10) 座長 華女子大学教授 傳法 公麿 「今、地方衛生研究所に求められているもの」 北海道立衛生研究所長 田村 正秀	
		一般演題 (10:20-11:50) 9題 [地域保健9]	一般演題 (10:20-12:00) 10題 [南科保健7、保健情報3]
21日	昼	北海道公衆衛生学会評議員会 (8階810会議室) (12:10-13:00)	
11月	後	総会 (13:10-13:40) 特別講演1 (13:45-15:15) 座長 北海道立衛生研究所長 田村 正秀 「これからの保健師に期待すること—教育の立場から」 天使大学学長 近藤 潤子 指定発言 北海道保健看護専門学校校長 井上 一男 北海道保健福祉部地域医療課 参事兼看護対策室長 内藤 靖子	
		一般演題 (15:25-17:35) 13題 [精神保健13]	一般演題 (15:25-17:45) 14題 [感染症14]
11月	前	一般演題 (9:00-10:50) 11題 [思春期保健5、介護・支援6]	一般演題 (9:00-10:50) 11題 [試験検査8、その他3]
		教育講演1 (11:00-11:45) 座長 旭川医科大学教授 羽田 明 「高齢者共同住宅を運営する立場から」 夕日ヶ丘山荘 正木 正一	教育講演2 (11:00-11:45) 座長 北海道立衛生研究所 感染症センター長 砂川 絳之 「BSEに関わる最新の知見」 北海道立衛生研究所 微生物部 池田 徹也
22日	昼	北海道公衆衛生学雑誌編集委員会 (7階720A 研修室) (11:55-12:55)	
11月	後	特別講演2 (13:05-14:20) 座長 北海道立衛生研究所副所長 本間 寛 「遺伝子治療を通してみた医療—社会的背景」 北海道大学大学院客員教授 (手稲漢仁会病院) 崎山 幸雄 指定発言 北海道立衛生研究所 生物科学部長 澤田 幸治	
		一般演題 (14:30-17:20) 17題 [介護・支援8、母子保健9]	一般演題 (14:30-15:50) 8題 [成人保健8]

学 会 長 講 演

第1日 11月21日 午前9:40~10:10 第1会場（かでのホール）

「今、地方衛生研究所に求められているもの」

演 者 田 村 正 秀（北海道立衛生研究所長）

座 長 傳 法 公 麿（藤女子大学教授）

特 別 講 演 1

第1日 11月21日 午後13:45~15:15 第1会場（かでのホール）

「これからの保健師に期待すること—教育の立場から」

演 者 近 藤 潤 子（天使大学長）

座 長 田 村 正 秀（北海道立衛生研究所長）

特 別 講 演 2

第2日 11月22日 午後13:05~14:20 第1会場（かでのホール）

「遺伝子治療を通して見た医療—社会的背景」

演 者 崎 山 幸 雄（北海道大学大学院客員教授）

座 長 本 間 寛（北海道立衛生研究所副所長）

教 育 講 演 1

第2日 11月22日 午前11:00~11:45 第1会場 (かでのホール)

「高齢者共同住宅を経営する立場から」

演 者 正 木 正 一 (夕日ヶ丘山荘)

座 長 羽 田 明 (旭川医科大学教授)

教 育 講 演 2

第2日 11月22日 午前11:00~11:45 第2会場 (4階 大会議室)

「BSEに関わる最新の知見」

演 者 池 田 徹 也 (北海道立衛生研究所微生物部)

座 長 砂 川 紘 之 (北海道立衛生研究所感染症センター長)

一 般 演 題

発表者のみを掲載しています。

11月21日(木) 午前 第1会場(かでのホール)

地域保健(1)

10:20~10:50

座長 大久保洋子(岩見沢保健所)

- 1 千歳保健所における地域健康づくり推進の取組みについて
国田 松博(千歳保健所)
- 2 「けんこう帯広21」推進に向けて
岡林 敦子(帯広市保健福祉部保健課)
- 3 「健康なかとんべつ21」の策定に取り組んで
—健康でいさいさ暮らせるまち なかとんべつをめざして—
前田 冷子(中頓別町保健センター)

地域保健(2)

10:50~11:20

座長 小橋 元(北海道大学大学院医学研究科老年保健医学)

- 4 こころの健康感に対する生活習慣の影響
—両富良野町, 2002年—
勝亦百合子(北大大学院医学研究科老年保健医学分野)
- 5 食物摂取頻度と食行動に関する実態調査成績
—両富良野町, 2002年—
佐藤 香苗(北大院・老年保健医学分野)
- 6 健康・栄養意識調査より 健康情報の送り手としての保健所のあり方
中村 悦子(小樽市保健所)

地域保健(3)

11:20~11:50

座長 荒 尋子(鹿栖町)

- 7 宗谷地域の看護職員実態調査からの一考察
—看護職の確保と地域に定着するための要因について—
三浦美智子(稚内保健所)
- 8 病院立ち入り検査における保健師の役割と意義
成田 紀子(小樽市保健所)
- 9 保健推進員の主体的活動と保健師の支援方法の実態調査
山森 真弓(稚内保健所)

11月21日(木) 午後 第1会場(かでのホール)

精神保健(1)

15:25~16:15

座長 田邊 等(道立精神保健福祉センター)

- 10 DV被害女性のPOMS検査による気分感情状態
蔵本信比古(北海道立女性相談援助センター)

- 11 1歳児をもつ母親のパートナーからの暴力と精神的健康の実態
澤田いずみ（札幌医科大学保健医療学部看護学科）
- 12 精神障害者の回復像形成と小規模作業所機能
加藤 秋子（札幌大 保健医療学部）
- 13 在宅精神障害者のニーズと生活実態に関する一考察
—生活実態に関するアンケートから—
高橋希世子（静内保健所）
- 14 「社会的ひきこもり」青年への就労支援
—兼職事業を利用した2事例の経験から—
高野 千代（道立精神保健福祉センター）

精神保健（2）

16：15～16：55

座長 築島 健（札幌市立精神保健福祉センター）

- 15 地域に根ざした精神保健福祉活動の取り組み
—保健所と共に歩んだ15年—
長屋 敏男（遠軽地方さわか共同作業所）
- 16 地域に根ざした精神保健福祉活動の取り組み
—作業所と共に歩んだ15年—
江莉美智代（紋別保健所遠軽支所）
- 17 佐呂間町における精神障害者支援の取り組み
渡辺重希子（佐呂間町役場）
- 18 ボランティアが精神障害者患者会に参加する意味
北山 明子（紋別保健所遠軽支所）

精神保健（3）

16：55～17：35

座長 渡部 正行（札幌市保健福祉局）

- 19 精神科遠隔診療モデル事業について
—釧路住民を対象とした テレビ電話による精神科遠隔診療の可能性—
坂田 洋一（稚内保健所）
- 20 フォーカスグループインタビューの手法を用いた地域の精神保健福祉活動ニーズ把握の試み
沖野 真理（稚内保健所浜頓別支所）
- 21 南宗谷地域における精神保健福祉連絡会の取り組み
坂田 朋子（稚内保健所浜頓別支所）
- 22 「地域ケア」のこころみと拡がり
—見えてきたもの—
横田 静子（道立緑ヶ丘病院）

11月21日（木） 午前 第2会場（4階 大会議室）

歯科保健（1）

10：20～11：00

座長 請井 繁樹（札幌市保健福祉局）

- 23 口腔衛生と全身の健康状態について
大野 琴子（北海道文教大学）

- 24 旭川市民の歯の健康意識について
—「健康日本21旭川計画」アンケート調査の結果から—
上林 宏次（旭川市保健所）
- 25 1歳児のむし歯予防教室参加者の生活習慣について
加藤 雪江（札幌市北区保健福祉部）
- 26 幼児の口臭に対する保護者の意識
兼平 孝（北大大学院・歯・口腔健康科学・予防歯科）

歯科保健（2）

11:00～11:30

座長 和田 聖一（帯人保健所）

- 27 留辺藻町保育所における歯科保健の取り組みについて
—第1報 取り組みの経過とアンケート調査より—
宮部真由美（留辺藻町役場）
- 28 留辺藻町立保育所における歯科保健対策の取り組み
—第2報 口腔内状況の推移から—
中山 佳美（北見保健所）
- 29 60歳代女性の口腔内状況と血液検査結果との関連について
水根 伸子（函館市衛生試験所）

保健情報

11:30～12:00

座長 山口 亮（網走保健所）

- 30 WEBでの保健情報の提供について
—RDBMSとJSPの活用を目指して—
北田日出夫（岩見沢保健所）
- 31 札幌市内の病院、診療所におけるホームページ公開の現状について
三瀬 敬治（札幌大・医・衛生）
- 32 BSE問題・報道による牛製品の消費に対する影響調査
三瀬 敬治（札幌大・医・衛生）

11月21日（木） 午後 第2会場（4階 大会議室）

感染症（1）

15:25～16:05

座長 赤石 尚一（札幌市衛研）

- 33 病原性大腸菌のStx2変異遺伝子について
若森 吉広（北海道立衛生研究所）
- 34 腸管出血性大腸菌O157の病原因子について
長野 秀樹（北海道衛研）
- 35 腸管出血性大腸菌 non-O157にみられる病原因子の heterogeneity
長野 秀樹（北海道衛研）
- 36 腸管出血性大腸菌O26の集団発生に対応した検査方法
坂本裕美子（札幌市衛生研究所）

感染症(2)

16:05~16:35

座長 荒田 吉彦(釧路保健所)

- 37 道内の温泉利用におけるレジオネラ属菌実態調査(1)
—レジオネラ属菌検出結果について—
熊田 洋行(北海道立衛生研究所)
- 38 道内の温泉利用施設におけるレジオネラ属菌実態調査(2)
—衛生管理における注意点—
森本 洋(道衛研)
- 39 千歳保健所管内の高齢者の結核について
廣田 洋子(千歳保健所)

感染症(3)

16:35~17:15

座長 大見 広規(上川保健所)

- 40 オホーツク麻疹予防対策特別事業について
山原 淳一(網走保健所)
- 41 北海道A市におけるHIV/STDに関する知識、意識および行動に関する調査(第1報)
—調査の概要および集計結果—
大久保洋子(岩見沢保健所)
- 42 北海道A市におけるHIV/STDに関する知識、意識および行動に関する調査(第2報)
—学校教育の効果の検討—
廣岡 憲造(旭川医大公衆衛生)
- 43 2001年度の北海道におけるインフルエンザウイルスの疫学調査
伊木 繁雄(道衛研)

感染症(4)

17:15~17:45

座長 古屋 宏二(道立衛研)

- 44 北海道におけるエキノコックス流行の地域特性
梶野 圭太(北海道大学大学院医学研究科医老年保健医学分野)
- 45 北海道におけるエキノコックス症の一次スクリーニング(ELISA)精度管理
川瀬 史郎(北海道立衛生研究所)
- 46 キツネ用駆虫薬入りベイトを用いたエキノコックス症感染源対策法の検討
高橋 健一(道立衛生研究所)

11月22日(金) 午前 第1会場(かでのホール)

思春期保健

9:00~9:50

座長 廣田 洋子(千歳保健所)

- 47 釧路市における思春期保健事業について
—高校生の性に関する調査結果より、今後の事業の展開を考える—
米田知重紀(釧路市健康推進課)
- 48 思春期保健事業における行動変容を促す性教育の試み
土井 香苗(倶知安保健所)

- 49 中学校における性教育の実態調査
—教師の性教育に対する認識と実践内容に焦点を当てて—
高柳 祥 (市立札幌病院)
- 50 教師の性教育に対する意識調査 (1)
—学校保健といかに連携するか—
山本 長史 (苫小牧保健所)
- 51 教師の性教育に対する意識調査 (2)
—学校保健といかに連携するか—
高橋 恭子 (苫小牧保健所)

介護・支援 (1)

9:50~10:20 座長 工藤 深雪 (北海道看護協会)

- 52 道内市区町村における地域ケア会議の実態
—市町村保健師のアンケート調査から—
武田 夏美 (元北海道立衛生学院保健師科)
- 53 懇話会を活用した転倒に関する住民意識の実態把握について
相坂智紗子 (上川保健所)
- 54 門別町高齢者実態調査について
藤原 祥恵 (門別町役場)

介護・支援 (2)

10:20~10:50 座長 小関三千代 (道立衛生学院)

- 55 稚内市における『健康運動教室』の実践
—中間報告 その1—
山本 佳恵 (稚内市生活福祉部保健課)
- 56 泊村における村民主体の転倒予防教室の実践 (その1)
—役場がつくり参加者が変えた「ころばぬ教室」—
宮下 常美 (泊村役場)
- 57 泊村における村民主体の転倒予防教室の実践 (その2)
—教室参加者にみられた身体的・心理的变化—
近藤 栄子 (泊村役場)

11月22日 (金) 午後 第1会場 (かでのホール)

介護・支援 (3)

14:30~15:10 座長 北村久美子 (旭川医科大学地域保健看護学)

- 58 高齢者の社会的サポートネットワークに関する長期縦断研究
—過疎地と都市における8年間の推移—
片倉 洋子 (北海道大学医学研究科)
- 59 社会参加をめざす機能訓練
—「機能訓練 地域参加グループ」の取り組み—
永田 敏 (帯広市保健福祉部保健課)
- 60 介護予防における筋力トレーニング事業の効果について
—札幌市と奈井江町における取り組みより—
辻脇真理子 (奈井江町役場)

- 61 痴呆性高齢者・家族に対する近隣・周囲からの心の支え
 —北海道はけ老人を支える家族の会会員への実態調査より—
 井田 里見 (渡島保健所木古内支所)

介護・支援 (3)

15:10~15:50

座長 今井 良子 (釧路保健所)

- 62 様似町における老人性痴呆早期発見対策事業とその後の子防活動について
 小田 晴美 (様似町)
- 63 帯広保健所管内における在宅神経難病患者に対する保健師の支援についての検討 (その1)
 —患者の療養上の希望とその支援—
 工藤麻紀子 (帯広保健所)
- 64 帯広保健所管内における在宅神経難病患者に対する保健師の支援についての検討 (その2)
 —家族の療養生活上の困りごととその支援—
 菅原 洋子 (帯広保健所)
- 65 奈井江町による肢体不自由児早期療育の取り組みについて
 藤井 龍介 (岩見沢保健所)

母子保健 (1)

15:50~16:40

座長 藤田 麗子 (苫小牧保健所)

- 66 「子どもの虐待防止ネットワーク」の取り組み (その7)
 —親子分離後の家族再構築への援助・当事者組織の役割—
 萩野 仁 (浦河べてるの家)
- 67 「子どもの虐待防止ネットワーク」の取り組み (その8)
 —親子分離後の家族再構築への援助・児童養護施設の役割—
 本巣 雄介 (北海明星学院)
- 68 「子どもの虐待防止ネットワーク」の取り組み (その9)
 —親子分離後の家族再構築への援助・医療機関の役割—
 向谷地生良 (浦河赤十字病院)
- 69 「子どもの虐待防止ネットワーク」の取り組み (その10)
 —親子分離後の家族再構築への援助・児童相談所の役割—
 幅 三平 (岩見沢児童相談所)
- 70 「子どもの虐待防止ネットワーク」の取り組み (その11)
 —親子分離後の家族再構築への援助・保健機関の役割—
 宍戸 明美 (浦河保健所)

母子保健 (2)

16:40~17:20

座長 里 和子 (足寄町)

- 71 北海道における児童虐待子防への保健師の取り組み (第1報)
 —保健師の意識調査—
 和久野みゆき (滝川保健所)
- 72 北海道における児童虐待子防への保健師の取り組み (第2報)
 —保健師の援助実態の調査—
 伊藤 綾 (滝川保健所)
- 73 「母乳育児への思いと現状」
 —親の希望に添った支援のために—
 上口 陽子 (旭川市保健所)

- 74 母子保健地域ネットワークづくりの実践と今後の課題
 —こどもの健康を考える会のとらきみから—
 齊藤しのぶ（帯広保健所本別支所）

11月22日（金） 午前 第2会場（4階 大会議室）

試験・検査（1）

9：00～9：40

座長 高橋 哲夫（道立衛研）

- 75 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について（第7報）
 —含窒素系農薬—
 新山 和人（道立衛生研究所）
- 76 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について（第8報）
 —有機リン系農薬—
 佐藤 正幸（道衛研）
- 77 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について（第9報）
 —ピレスロイド系農薬及びN-メチルカーバメイト系農薬—
 菅原 尚子（稚内保健所）
- 78 プラスチック製医療用具から溶出するフタル酸エステル類について（第2報）
 —PVC製輸液セットから溶出するDEHP—
 藤本 啓（北海道立衛生研究所）

試験・検査（2）

9：40～10：20

座長 市原 侃（道立衛研）

- 79 北海道産大豆のイソフラボン量
 扇谷 陽子（札幌市衛生研究所）
- 80 札幌市における妊婦の甲状腺機能スクリーニングとその児のクレチン症スクリーニング検査結果について
 本間かおり（札幌市衛生研究所）
- 81 札幌市における乾性沈着の動向
 —黄砂の影響について—
 恵花 孝昭（札幌市衛生研究所）
- 82 花粉症の子防に関する研究 7
 —2002年の道内5都市におけるシラカバ空中花粉調査—
 小林 智（道衛研）

その他

10：20～10：50

座長 後藤 良一（旭川保健所）

- 83 集田給食施設（事業所）のアンケート結果から
 岩崎 美子（札幌市保健所）
- 84 SF-36による医療技術者養成施設の学生のQOLについて
 —医療技術養成施設の学生と管理栄養士養成施設の学生の比較—
 上田 文子（藤女子大学）
- 85 疫学研究における倫理的問題についての医学生の意識
 鷲尾 昌一（札幌医科大学医学部）

成人保健（1）

14：30～15：10

座長 岩田 顕（滝川保健所）

- 86 がん電話相談利用状況
 縣 有（北海道対がん協会）
- 87 釧路がん検診センター帯広出張所における5年間の勤奨効果
 東辻 和彦（釧路がん検診センター）
- 88 旭川医科大学および附属病院職員の各職種における喫煙に対する意識
 伊藤 俊弘（旭川医大衛生学）
- 89 北海道における不慮の事故死の季節集積性（1998～2000年）
 望月 吉勝（旭川医科大学看護学科）

成人保健（2）

15：10～15：50

座長 吉田 茂夫（北海道地域医療振興財団）

- 90 血管系疾患発症の季節性1
 ー旭川市における過去5年間の高齢者救急搬送数と気温からー
 熊田 祐香（旭川市保健所）
- 91 血管系疾患発症の季節性2
 ー降雪と高齢者の心疾患救急搬送数から雪かきの影響を考えるー
 山下 麻子（旭川市保健所）
- 92 事業所における健康管理の実態調査
 沼田 由紀（帯広厚生病院）
- 93 有珠山噴火災害仮設住宅入居者の健康調査
 ー噴火避難生活1年後の健康・生活状況と対策への活用ー
 羽山美由樹（室蘭保健所）

第54回北海道公衆衛生学会運営役員

学 会 長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	所 長	田 村 正 秀
副 学 会 長	北 海 道 保 健 福 祉 部	技 監	小 山 隆 三
副 学 会 長	札 幌 市 保 健 福 祉 局	長	官 田 睦 彦

幹 事	北海道大学大学院医学研究科予防医学（環境医学）	助 教 授	齊 藤 健
幹 事	北海道大学大学院医学研究科予防医学（公衆衛生学）	講 師	佐 田 文 宏
幹 事	北海道大学歯学部口腔健康科学講座	助 教 授	本 多 丘 人
幹 事	札幌医科大学医学部公衆衛生学	助 教 授	池 田 聡 子
幹 事	札幌医科大学保健医療学部	助 教 授	平 野 寛 子
幹 事	札 幌 市 保 健 所	所 長	高 瀬 愛 子
幹 事	北 海 道 千 歳 保 健 所	所 長	廣 田 洋 子
幹 事	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	副 所 長	本 間 寛
幹 事	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	感染症センター長	砂 川 絳 之

事務局

事務局 局長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	企画総務部長	高 野 修 三
事務局 次長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	健康科学部長	矢 野 昭 起
事務局 次長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	食品薬品部長	難 義 宏
事務局 次長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	微生物部長	小 川 廣
事務局 次長	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	生物科学部長	澤 田 幸 治
事務局 員	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	総 務 課 長	望 月 敏 文
事務局 員	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	企画情報室長	市 原 侃
事務局 員	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	企画情報室主任研究員	長谷川 伸 作
事務局 員	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	総 務 係 長	菅 野 克 昭
事務局 員	北 海 道 立 衛 生 研 究 所	企画調整係長	加賀谷 武 行